「中皮腫患者家族のケアに従事するナース」のための

中皮腫ABCニュース

2025.7.30発行
Vol.10
発行者:長松康子

「第一回中皮腫事例検討会」を開催しました!

ターミナル期の中皮腫の症状は複雑で対応が困難です。
痛みや呼吸困難はもちろん、薬物療法による副反応にも注意が必要です。
しかしながら、**中皮腫の病状の予測や診断は専門医でも難しい**といわれます。
そこで、横須賀共済病院の諸星隆夫先生のご発案で症例検討会を催しました。
胸膜中皮腫患者さんの**経過を時系列で示し、実施された治療やケアについて振り返りを行うという、日本初の試みです**。
記念すべき第一回事例検討会には、日本全国から22人の方々が参加してくださいました。

まず、中皮腫という疾患や最新の治療について諸星先生が講義してくださいました。その後、胸膜中皮腫ABCケアを取り入れ、退院後の在宅ケア導入に力を入れている横須賀共済病院の井上はるみさんとベルランド総合病院の杉井紗季さん・南 翔子さんがそれぞれ事例を発表されました。
発症から診断、手術、化学療法、家族形態、その時々の患者さんとご家族の心身の状態や意向、解決すべき課題、それに対するケアや在宅ケアを取り入れるための様々な工夫を時系列で詳しく説明されました。
病院を退院した後の患者さんの様子はなかなか知ることがないので、皆さん興味深々に聞かれていました。

▲井上はるみさん（横須賀共済病院/看護師長）

在宅ケアといっても患者さんによって適用できるケアは異なります。
患者さんに必要なケアを届けるために、在宅ケアのプロはあの手この手で知恵を絞ることを、ケアマネージャーの清川タイ子さんがお話しくださいました。
最後に、中皮腫治療の第一人者の諸星先隆夫生、石川善啓先生、坂下博之先生が、フロアから質問を受け、わかりやすく回答してくださいました。

▲在宅ケアの導入におけるアドバイスを
はんどケアの清川タイ子ケアマネージャー、
安西光子さん、勝美祐美子さん、
じん肺・アスベスト被災者救済基金の
池田理恵さんが伝授！

▲坂下博之先生
（横須賀共済病院呼吸器内科）

▲石川善啓先生
（横須賀共済病院呼吸器外科）

▲諸星隆夫先生
（横須賀共済病院呼吸器外科）

▲南翔子さん（右）・杉井紗季さん（左）
（ベルランド総合病院・看護師）

『第6回 日本石綿・中皮腫学会学術集会』は、2025年10月に開催されます！

【日程】10月4日（土）・5日（日）
【会場】神戸大学

第6回 日本石綿・中皮腫学会学術集会
http://jamig2025.umin.jp/greeting.html

日本石綿・中皮腫学会は、中皮腫などアスベストによっておこる病気の診断や治療について最新の知見を発表する学会です。中皮腫の第一人者の医師から最新の知識を直接学べるチャンスです。どの先生も優しくて親切な方ばかりです。ほとんどの参加者は医師ですが、看護師のケアについても少しずつ発表されるようになりました。今年も中皮腫バディナースが中皮腫患者さんとご家族に実践しているケアを発表します。
中皮腫のケアや研究をしている看護師との交流もできます。
みんなで参加しましょう。今年の学会参加費は5000円です。

中皮腫患者さんとご家族向け「訪問看護チラシ」できました

退院して通院で薬物療法を行う患者さんや、自宅で療養される患者さんは、不調や心配ごとがあってもなかなか相談する相手がいません。ともすると症状が急激に進んでも受診先が見つからず、患者さんは七転八倒ということも。中皮腫患者さんとご家族にとって、訪問看護・在宅医療は、いざというときの心強い味方です。
しかし患者さんの中には、訪問看護や在宅医療に抵抗感を持つ方もいらっしゃいます。
「まだ一人で風呂にはいれる」「おむつはいらない」と介護と混同している方もいます。
訪問看護正しく理解していただくために、横須賀共済病院の看護師・井上はるみさん、じん肺・アスベスト被災者救済基金の池田理恵さんと、患者さんとご家族むけにチラシを作りました。
ご希望の方にはお送りしますので、ご連絡ください。

【問合せ】 聖路加国際大学 長松康子　sarah-nagamatsu@slcn.ac.jp